

キャラ設定/エンディングの補足

名前:レクナ・モルシェン
(Necromancerを反対から読んだ当て字。)

・性格・キャラ設定について

- ①基本的に無関心
- ②欲望に流されるがままの人間を馬鹿にするのが好き(その時は態度が豹変する)
- ③ネクロマンサー

・見た目について

目は赤色

やや死んでる(特に何も気にしてなさそうな感じ)

髪色は白

肌も白め

身長は小さめ(150cmくらい)

体型は標準くらい(体重45kg程度)

・服装など

服はパーカーorコートっぽい感じ

ハーフパンツ

ブーツ

・キャラの詳細

看守役。

死者の望み(未練)を叶える代わりに魂を吸収することが使命。

その使命を誰に言われたか、どうすればその役割から解放されるかは思い出せない。

霊体は通常死ぬことは出来ないが、ネクロマンサーである彼女のみ魂を吸収

できる。

ここに来た人間はマゾばかりで、いじめまくってきてるけど、各々の好みに合ったプレイをしっかりと考え込んでいる。

★伏線回収ポイント

レクナの未練は？

他者から承認されないことを怨み、死の間際に、思い通りに誰かを支配したいという未練がきっかけで、ネクロマンサーになった。

「私がどうやって死んだのかは思い出せないが、死の間際にこう思った。」

「相手の魂を操作して、思い通りにできるような人形が欲しい。そうすれば私にも仲間ができる。」

「身勝手で、歪な願望だが、この世界ではそれが叶ってしまった。」

「私はネクロマンサーになり、この世界での使命を遂行してきた。」

・あなたを信じた場合、レクナは本当の意味での仲間が出来たことになる。

「意思がない相手を思うがままに操る。」

「そんなことはただ虚しいだけで、1日も経たない内に飽きる。」

「だから...今回はお前を信じてみることにした。」

実はお互いの未練を乗り越えれば、お互いが使命から解放され、牢獄そのものが消える。

罪＝未練＝欲望。

(牢獄自体は外が存在せず、出て行くことは不可能)

★エンド分岐について

・聞き手の視点

あなたは欲望(未練)に惑わされずに誘惑を断ち切った(本来ならそのまま意識ごと消えていた=実質的には死んでた)。

今まで牢獄に来た人間は全員誘惑に惑わされたまま傀儡化。

エンド1ではそのまま未練を断ちきれずに終わる。

・レクナの視点

レクナは他人を信じられないから、思うがままの存在を欲してたけど、あなたのことを信じてみることにした。

理由は2つ。

レクナ自身がずっと救いの手を差し伸べて欲しいと心の奥底で思っていたから。

そして、聞き手が未練(性癖)を断ち切り、レクナのことを欲望の対象としてではなく、1人の人間として接していたことがレクナに伝わったから。

そんな人間はこの牢獄にはあなたを除いて誰1人いなかったし、レクナ自身も自分のことを怖がらず対等に接してくれる人間を生前からずっと探し求めていた。

そのおかげで、彼女も人間不審(人を信じたいのに信じれなかった)という未練から解放されました。

過去にこの世界に来た人間は欲望にまみれた人間ばかりでした。

自分の最大の望みが叶う世界なので、大抵の意思の弱い人間はその虚しさに気づくこともなく、3日間をただただ欲望を満たすために使います。

そんな人間をレクナは見下すように扱っていました。

あなたを信じなかった場合はエンド1へ。

★この世界の仕組みについて

死後の世界(牢獄)を作ったのは死神に近い何か笑

レクナを媒介に、この世界にやってきた亡者の魂を肉体から切り離し、魂を集めるのが目標だった。

レクナ自身は自覚がないままに使命(=亡者の欲望を満たす変わりに徐々に魂を吸収)を命じられていた。

トゥルーエンドの少し前で、あなた自身が妄想は妄想であるべきや...と悟り、レクナも己の本心と向き合い、打ち勝ったおかげで、お互いの罪=未練が消え、牢獄そのものが消えていった。

→この世界では未練に打ち勝つことで、限られたものだけが楽園(天国的なやつ)に入ることが出来た。

もちろん聞き手にもレクナにもその自覚はなかった。

→牢獄の真の目的は死してなお己と向き合える者を厳選すること(仏教で言う解脱みたいな感じ)で、亡者の魂吸収は単なる目標にすぎない。

★4日目を迎える=文字通り死ぬor過去の自分との死別

(4=死を連想させる)

ノーマルエンドだと、文字通り死にます。

トゥルーエンドだと、過去の自分が死ぬみたいな意味合いで。

牢獄の外はお花畠になっていた。

牢獄=地獄で、未練(罪)を乗り越えたから天国みたいな場所に辿り着けた。変態マゾ(あなた)とレクナがお互いの未練を晴らしたから、気分も晴れやかになっているはずなので、日差しが「眩しい...」っていう心理描写をほのめ

かしてます。

※解脱(げだつ)は下の意味にもなってます。

- ①俗世間の束縛・迷い・苦しみからぬけ出し、悟りを開くこと。
- ②また、死者の靈が修羅(しゅら)の妄執(もうしゅう)をのがれて浮かばれること。

★この作品のテーマは贖罪

わざわざここまで読んだ人なら明らかですが、贖罪をテーマにしました。

「欲望に執着するのは本当に幸せか？」というのがこの作品で伝えたかったメッセージです。

思うような願いが叶っても、結局はその虚しさに気づき、道徳を求め出すという人間の本質をえぐり出そうと思って書きました。

後は、人間って敬意とか愛情を持って接すると、その相手がびっくりするほど簡単に変わったり、二面性があったりすることに気付いたりします。
→海外のハリウッド脚本家の本に書いてあった原型(キャラの分類)というページにあった、変身するものという行動パターンを参考にしてます。

★色々影響されてるやつ

- ①スター・ウォーズのダースベイダー

最後の最後にころっと価値観が変わって、ルークを守ろうとしましたが、まさにあんな感じの心理描写をやりたかったので、頑張りました。

他にも、雰囲気的な意味で、こんな感じの作品たちに影響されています。

- ②ダクソ

退廃的。救いが無さそうな感じ。

- ③羊たちの沈黙

マゾとネクロマンサーの奇妙な関係性

④ショーシャンク
贖罪パートのラストシーン。

暗いけど、最後の最後には救いのある感じの物語に影響されとります。

★3日目に喋ってたこと

変態マゾ

「その...今さらこんなこと言っても意味ないかもしれないけど、何か間違ってると思わないか...？」

ネクロマンサー

「ふん...なるほどな。
確かにこの世界は何かがおかしい。
未練だの罪だの、訳の分からぬことばかりだ。
それで、いったい何が言いたい？」

変態マゾ

「うん...そもそも、こんなに都合が良い世界...ありえなくないか？
マゾ性癖に執着して気づいたんだ。
妄想は妄想のままで終わるべきだって。
結局、願いが叶っても虚しいだけだろ？
願望だからこそ価値があるんだって。」

ネクロマンサー

「確かに...私もこんな虚しい世界にはうんざりしていた。
未練とは言うものの、大抵は醜い欲望に過ぎず、それが満たされるだけの偽物の世界...。
だが、なぜ今更そんなことを。」

変態マゾ

「ここで虚しく欲望を満たしたまま死んでいくのは間違ってるって気づいた

んだ。

だからその...性的な気持ちでしか見てなかったこと、謝るよ。
人として恥ずかしい事をさせてしまった。」

ネクロマンサー

「そもそも、なぜ今さら謝る？
マゾ性癖を満たすための存在として、お前が私を見ていたのは知っている。
だが、欲望に執着して、何が悪い？
お前も、今までずっと欲望に流され続けてきただろ？
このまま欲望にしがみついたまま、お前は私の傀儡になるべきなんだ。」

変態マゾ

「...」

ネクロマンサー

「はあ...こんなことを言ってきたのはお前が初めてだ。
お前を除けば、全員未練に流されたまま、何の疑問も持たずに私の傀儡となつていった」

「だが、気に入ったぞ。
当たり前のことに疑問を持つお前の姿勢にな。
少し時間をくれ...考えたいことがある。」

変態マゾ

「...」

ネクロマンサー

「よし、決めたぞ。
今日は私の意思でお前を気持ちよくさせてやろう。
お前が望むからではない。
私自身がお前のことと猛烈に虐めてやりたくなってきたからな...くすくすく

すくす。

ああ、安心しろ。

自分の意思で虐めている場合、お前の魂を奪うことはできないはずだ。」